

令和4年度第2次補正予算行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	国立研究開発法人科学技術振興機構施設整備に必要な経費			担当部局	科学技術・学術政策局	作成責任者				
事業開始年度	平成21年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	人材政策課	人材政策課長	橋爪 淳			
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	国立研究開発法人科学技術振興機構法			関係する 計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定) 物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策(令和4年10月28日)					
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	科学技術振興機構(JST)が設置する施設の整備・充実を図るために要する経費を補助することにより、第6期科学技術・イノベーション基本計画に定める事業等の着実な実施を図り、もって科学技術の振興に資することを目的とする。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	科学技術振興機構に対して、以下の取組を実施するための経費を補助する。【定額補助】 ・日本科学未来館の整備(空調用機器、自然排煙設備、受配電設備の更新、建物外壁改修、館内内装改修 等) ・外国人研究者宿舎の整備(給湯設備、車路管制設備及び泡消火設備の更新 等)									
実施方法	補助									
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	令和元年度	1,597	令和2年度	189	令和3年度	-	令和4年度	-
		補正予算	令和元年度	247	令和2年度	207	令和3年度	456	令和4年度	664
		令和4年度第2次補正予算	令和4年度						664	
		前年度から繰越し	令和元年度	205	令和2年度	777	令和3年度	207	令和4年度	456
		翌年度へ繰越し	令和元年度	▲ 777	令和2年度	▲ 207	令和3年度	▲ 456	令和4年度	-
		予備費等	令和元年度	-	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-
		計	令和元年度	1,272	令和2年度	966	令和3年度	207	令和4年度	1,120
	執行額	令和元年度	1,272	令和2年度	966	令和3年度	207	令和4年度		
	執行率(%)	令和元年度	100%	令和2年度	100%	令和3年度	100%	令和4年度		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	令和元年度	69%	令和2年度	244%	令和3年度	45%	令和4年度		
令和4年度第2次補正予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度第2次補正予算	主な増減理由							
	国立研究開発法人科学技術振興機構施設整備費補助金	664	-							
	計	664	-							
活動内容 (アクティビティ)	機構の業務を効果的・効率的に推進するため、老朽化対策を含め、施設・設備の改修、更新等を重点的かつ計画的に実施する。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	施設・設備の改修、更新等を通じた事業の効果的・効率的な推進	施設の整備数	活動実績	件	5	5	1	-	-	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	国立研究開発法人科学技術振興機構の事業を実施する上で必要な施設整備費補助金のため、単位当たりコストの算出は困難		単位当たりコスト	-	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度	
	独立行政法人通則法で定められている年度評価において標準評価以上を目指す。	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合(標準評価以上の項目数/評価項目数(6個))	成果実績	%	100	100	100	-	-	
			目標値	%	100	100	100	-	-	
達成度			%	100	100	100	-	-		
根拠として用いた統計・データ名	国立研究開発法人科学技術振興機構の各年度における業務の実績に関する評価									
政策再生計画との関係	政策評価	政策	政策評価書 URL							
			該当箇所							
	再生計画	再生計画改革	取組事項	分野:						
(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:										
該当箇所										

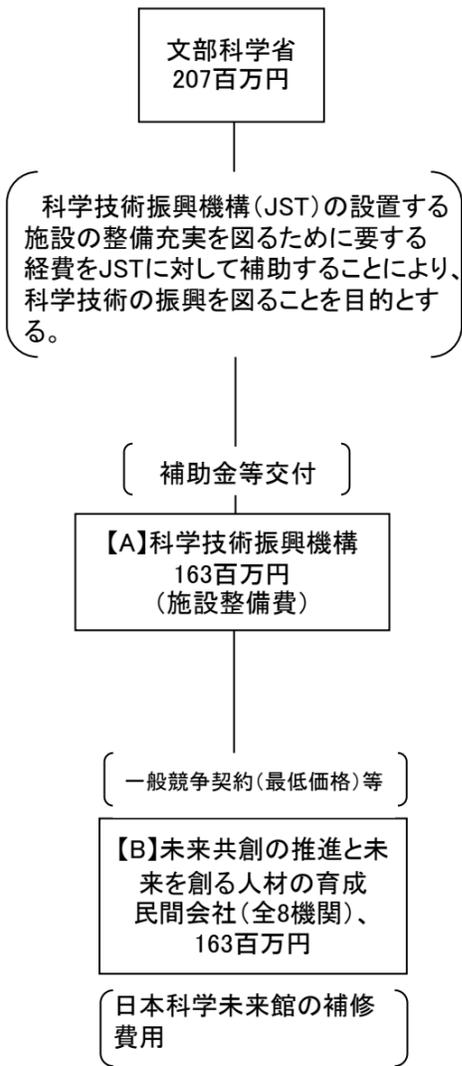
事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	JSTは、第6期科学技術・イノベーション基本計画を実施する中核的機関として、ネットワーク研究所としての特徴を活かし、未来を共創する研究開発戦略の立案・提言、知の創造と経済・社会的価値への転換、未来共創の推進と未来を創る人材の育成に総合的に取り組んでおり、事業の目的は国民や社会ニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	-	-
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	JSTは、第6期科学技術・イノベーション基本計画を実施する中核的機関として、ネットワーク研究所としての特徴を活かし、未来を共創する研究開発戦略の立案・提言、知の創造と経済・社会的価値への転換、未来共創の推進と未来を創る人材の育成に総合的に取り組んでおり、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	国の少額随意契約基準以上の調達案件については、一般競争を実施し、やむを得ない場合であっても企画競争や公募等の競争性及び透明性の高い契約方式で調達を行っている。また、入札説明会等に参加者はいたものの、結果として一者応札となった調達規模の大きい事案や2か年度以上連続して一者応札となっている案件については、入札後に不参加業者への聞き取り等を実施し、類似事案の調達に役立てる等の一者応札改善の取組を行っている。競争性のない随意契約については、建物所有者指定による修繕工事など、契約の性質又は目的が競争を許さない契約および少額随意契約のみとなっている(国と同等の基準)。今後も一者応札となっている案件に関しては引き続き改善に向けた取組を行っていく。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	JSTは、科学技術イノベーションの創出に向け、国民や社会ニーズを的確に反映した事業を推進しており、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	JSTの実施する業務を効果的・効率的に推進する施設・設備について、その目的に則し、合理的と認められる支出が行われている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途は必要な施設改修工事に限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、日本や生産国において感染症対策が実施されたことに伴い、当初予定していた適切に施設の改修が出来るよう、施設の状況について随時モニタリングしている。	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	JSTは、主務省が示す中長期目標を達成するための中長期計画を策定の上、事業を推進し、評価結果を踏まえ成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	JSTの実施する業務を効果的・効率的に推進するため整備・更新する施設に関するものであり、JSTへの施設整備費補助金の交付が最も効果的・効率的である。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	JSTは、主務省が示す中長期目標を達成するための中長期計画を策定の上、事業を推進し、評価結果を踏まえ活動実績は見込みに見合ったものである。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	JSTは、主務省が示す中長期目標を達成するための中長期計画を策定の上、事業を推進し、評価結果を踏まえ整備された施設や成果物は十分に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	
備考			

関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成23年度	214			
平成24年度	233			
平成25年度	186			
平成26年度	184			
平成27年度	174			
平成28年度	177			
平成29年度	180			
平成30年度	181			
令和元年度		0175		
令和2年度		0176		
令和3年度		0190		

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。
 なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.国立研究開発法人科学技術振興機構			B.社会変革に資する研究開発戦略の立案と社会との共創		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	施設整備費	施設改修工事	163	施設整備費	日本科学未来館 コミュニケーションフロア 他木製建具及び内装改修工事	68
計		163	計		68	

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

